

# ゆうゆうバス削減 今でも、積み残しが発生

ゆうゆうバスが、平成22年9月より3台3コースより2台2コースに減らされ、「障がい者・高齢者外出支援バス」と位置付けられました。乗車対象者を障がい者・高齢者などとして、乗車バスを発行しました。

この間のゆうゆうバス(福祉バス)の月平均の乗客数と満席でバスに乗れなかった人の数は、別表のとおりです。



走らそうこのプロジェクトが含まれている。ぜひ、実現してほしい。

【問】ゆうゆうバス削減後に、外出をあきらめた方も生まれており、また、積み残しもいまだに発生している。移動手段の拡充の検討は行っているのか。

【答】現在のところ、新たな取り組み等の検討は行っていない。

【問】社会福祉協議会が、昨年4月から始めた「福祉有償運送」はゆうゆうバス削減の代替手段でないのか。

【答】代替の位置づけはしていない。

【問】コミュニティバスに関する考えはどうか。

【答】京阪とJRの鉄道駅が6駅あり、京阪バスが6路線ある。今直ちに、コミュニティバスの新たな公共交通を必要とする状況にないと考えている。

■ゆうゆうバスの乗客数(月平均)

H22年8月まで	郡津コース	4,885人
	倉治コース	3,161人
	星田コース	4,224人
	計	12,270人
H22年9月～H23年3月	倉治・郡津コース	4,020人
	星田コース	2,680人
	計	6,700人
平成23年度	倉治・郡津	4,328人
	星田コース	2,602人
	計	6,930人
H24年4月～H25年1月	倉治・郡津	4,643人
	星田コース	2,863人
	計	7,506人

【要望】今後、高齢者・障がい者は増加していく。ゆうゆうバスの3台復活を強く要望する。また、交野市環境基本計画(2012年～2021年)には、「誰もが利用しやすいバスを

■積み残し数(月平均)

	倉治・郡津コース	星田コース
H22年9月～H23年3月	19人	1.8人
H23年度	15.4人	0.16人
H24年4月～H25年1月	15.1人	2.2人

# 市職員の体制について

【問】この10年間の職員の推移はどうか。

【答】表の通りで、正規職員が減ってきている。

【問】市は、財政健全化計画として、職員500人体制を目指している。しかし、府からの権限移譲や「市民と協働のまちづくり」などで、業務量が増大している。500人体制をどのように考えているのか。

【答】権限委譲や新たな事務事業などにより業務量が急増している。行政サービスや事務執行に支障をきたさないように、職員採用計画を見直すなど、適正な定員管理に努めたい。

【問】職員数の府下での比較はどうか。

【答】人口1万人に対する職員数は、交野市が67人、府下平均が77人で10人少ない。非正規職員の割合は51.8%で、府下平均の31.1%より高くなっている。

【要望】交野市内で一番雇用数が多いのが市役所である。デフレ解消、地域経済の発展のためにも正規職員を増やすことを要望する。

	正規職員	非正規職員	合計	非正規の割合
H15年	640人	526人	1,166人	45.1%
H22年	540人	633人	1,173人	54.0%
H24年	519人	559人	1,078人	51.8%

# 微小粒子状物質(PM2.5) 環境基準を超える日も発生

2.5ミクロン以下という非常に微小な物質が、肺の奥深く入り、がんやぜんそくを引き起こすと言われていいます。主にディーゼル自動車から排出されますが、中国の大気汚染の影響も指摘されています。

交野市内の3月度の値は、環境基準(1日平均値 35  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)を超えている日も出てきています。

環境省による「注意喚起のための暫定的な指針」は1日平均値で70超と設定しています。

■微小粒子状物質の測定日と日平均値

測定日	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6
日平均値( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	19.0	21.8	14.0	14.0	34.7	33.4
測定日	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12
日平均値( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	27.7	35.2	47.4	30.3	6.9	12.3
測定日	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	
日平均値( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	13.7	10.3	13.8	26.9	38.0	

※微小粒子状物質の環境基準  
1年平均値 15  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下かつ1日平均値 35  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下